

企業力と大学智の融合が生み出す環境教育 ～「JTB 旅いくプログラム」の共同開発事例から～

○宮本康司(東京家政大学)、池田まさみ(お茶の水女子大学)、安藤玲子(金城学院大学)、大竹千広(JTB 法人東京)、遊佐知広(JTB 法人東京)

キーワード：社会に生きる力、本物体験、コミュニケーション能力、旅いくチャート、旅いくファーム

【はじめに】

本格実施が開始された新学習指導要領は、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むことを掲げている。そこで、JTB 法人東京は、旅で出会う本物体験を通して子どもの「社会に生きる力」向上を目指す「旅いくプログラム」を創出すべく、お茶の水女子大学を中心とした大学チームとの共同研究を 2010 年から開始した。本共同研究チームによる実践の状況を報告する。

【「JTB 旅いくプログラム」の開発実施】

①旅いく版「生きる力」の尺度開発

未就学児をもつ保護者(807名)を対象とした質問紙調査を実施し(2010年12月)、その解析結果に基づいて、「保護者の生きる力」8要素、「子どもの生きる力」6要素を得た。両者ともに、生きる力の要素は「個人の力」と「チームの力」とに大別することができ、さらに、一般的に言われる「コミュニケーション能力」もこのような生きる力の要素を基盤とした総合的な力で捉えることができる可能性が示唆された。

②「旅いくチャート」の開発

生きる力の各要素に対応する質問を集約し、「旅いくアンケート」(保護者用24問、子ども用18問)を開発した。併せて、旅いくアンケートに回答したプログラム参加者が、自らその点数を記入・可視化できる「旅いくチャート」を開発した。旅いくチャートを蓄積することで、プログラム参加者は、生きる力の獲得の推移を要素ごとに把握することが可能となる。

③旅いくプログラム群の開発

旅で出会う本物体験には様々な類型があり、それらが向上させる生きる力要素は同一ではないことが予想される。従って、プログラム参加者が向上させたい生きる力要素に対応したプログラムを「旅いくプログラム群」から選択できるシステムの構築を目指し、まず農場における「旅いくファーム」プログラムの実践例を通して研究をすすめている。

【参考文献】

田尻由美子・井村秀文(1994) 幼児の環境意識・態度形成に影響を及ぼす母親の生活行動に関する調査研究 環境教育 4巻1号 8-18.

降旗信一・宮野純次・能條歩・藤井浩樹(2009) 環境教育としての自然体験学習の課題と展望 環境教育 19巻1号 3-16.

安藤玲子・池田まさみ(2010) クリティカルシンキングの育成(2) 一中学生用尺度の開発一 日本心理学会第74回大会論文集 1190.